

講義ユニット名	内分泌		所属科目名	器官・システム病態制御学 I
講義ユニット 責任者	はっとり のぼる 服部 登	所属	分子内科学（第二内科）（内線 5196）	
		メール	nhattori@hiroshima-u.ac.jp	
講義ユニット コーディネーター	おき けんじ 沖 健司	所属	内分泌・糖尿病内科（内線 5198）	
		メール	kenjioki@hiroshima-u.ac.jp	
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。			
概要	<p>内分泌代謝疾患とは「ホルモンの異常によってもたらされる病気」である。ホルモンは脳下垂体、甲状腺、副甲状腺、膵臓、副腎、性腺などで合成・分泌され、全身の諸臓器に作用する。異常をきたすホルモンの違い、過剰症・低下症により、全く異なる症状を呈する。全身に症状や徴候が出現し、あらゆる疾患の症状、徴候、検査所見を理解し、診療にあたる必要がある。</p> <p>本ユニットの講義では、多岐にわたる内分泌代謝疾患についての理解を深め、臨床医にとって基本的な知識を習得することが目標である。</p>			
講義ユニットの 到達目標	<p>乳房の構造と機能を説明できる。 成長発達に伴う乳房の変化を説明できる。 乳汁分泌に関するホルモンの作用を説明できる。 乳房腫瘍の画像診断（乳房撮影、超音波検査、CT）を概説できる。 乳房腫瘍に対する細胞・組織診断法を概説できる。 乳房腫瘍、異常乳汁分泌（出血性乳房）と乳房の腫脹・疼痛・変形をきたす主な病因を列挙できる。 良性乳腺疾患の種類を列挙できる。 乳癌の危険因子、症候、診断、治療と予後を説明できる。 女性化乳房を概説できる。 ホルモンを構造から分類し作用機序を説明できる。 ホルモン分泌の調節機構を概説できる。 各内分泌器官の位置を図示し、そこから分泌されるホルモンを列挙できる。 視床下部ホルモン・下垂体ホルモンの名称、作用と相互関係を説明できる。 甲状腺と副甲状腺<上皮小体>から分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。 副腎の構造と分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。 膵島から分泌されるホルモンの作用を説明できる。 男性ホルモン・女性ホルモンの合成・代謝経路と作用を説明できる。 糖質・蛋白質・脂質の代謝経路と相互作用を説明できる。 ホルモンの過剰または欠乏がもたらす身体症状を説明できる。 血中ホルモン濃度に影響を与える因子を列挙できる。 甲状腺疾患と副腎疾患の検査を概説できる。 ホルモンの日内変動の例を挙げて説明できる。 ホルモン分泌刺激試験と抑制試験の原理と反応の型を説明できる。 肥満・やせを定義し、それぞれの原因を列挙できる。 肥満・やせを呈する患者の診断の要点を説明できる。 低身長をきたす疾患を列挙し、その病態生理を説明できる。 甲状腺腫を分類し、疾患を列挙できる。 Cushing（クッシング）病の病態と診断を説明できる。 先端巨大症を概説できる。 汎下垂体機能低下症を概説できる。 尿崩症を概説できる。 成長ホルモン分泌不全性低身長症を概説できる。 視床下部・下垂体の画像検査の意義と適応を説明できる。 高プロラクチン血症を概説できる。 ADH不適合分泌症候群<SIADH>を概説できる。 Basedow（バセドウ）病の病態、症候、診断と治療を説明できる。 甲状腺炎（慢性・亜急性）を概説できる。 甲状腺機能低下症の症候、診断と治療を説明できる。</p>			

	<p>甲状腺腫瘍を分類し、その特徴を説明できる。</p> <p>甲状腺疾患の外科的治療の適応と合併症を説明できる。</p> <p>カルシウム代謝の異常を疾患と関連づけて説明できる。</p> <p>副甲状腺<上皮小体>機能亢進症と副甲状腺<上皮小体>機能低下症の病因、病態、症候と診断を説明できる。</p> <p>副腎腫瘍について概説できる。</p> <p>多腺性内分泌疾患について概説できる。</p> <p>悪性腫瘍に伴う高Ca血症を概説できる。</p> <p>偽性副甲状腺機能低下症を概説できる。</p> <p>Cushing（クッシング）症候群の病態、症候と診断を説明できる。</p> <p>アルドステロン過剰症を概説できる。</p> <p>褐色細胞腫を概説できる。</p> <p>副腎不全（急性・慢性）の病因、病態生理、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>糖尿病の病因、病態生理、分類、症候と診断を説明できる。</p> <p>糖尿病の急性合併症を説明できる。</p> <p>糖尿病の慢性合併症を列挙し、概説できる。</p> <p>糖尿病の治療（食事療法、運動療法、薬物治療）を概説できる。</p> <p>低血糖症を概説できる。</p> <p>脂質異常症<高脂血症>の分類、病因と病態を説明できる。</p> <p>脂質異常症<高脂血症>の予防と治療を説明できる。</p> <p>血清蛋白質の異常を概説できる。</p> <p>高尿酸血症・痛風の病因と病態を説明できる。</p> <p>ビタミン欠乏症と過剰症を概説できる。</p>
講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	出席状況把握システムにて毎講義出席をとる上に、教官によっては授業途中で小テストを実施し2重に出席を確認することがある。出席状況把握システムで毎講義出席をとる。3分の2以上の出席がない場合は本試験の受験資格を与えない。
評価項目	到達目標の達成度 （基本的理解と知識の応用）
評価法	MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格基準は60点とする。
推奨参考書	<p>【購入を推奨する参考書】</p> <p>【その他、学習に有用な参考書等】</p> <p>内分泌代謝専門医ガイドブック 診断と治療社</p> <p>糖尿病専門医研修ガイドブック 診断と治療社</p>